

「実践のまとめ（第6学年 道徳科）」

授業日 令和4年10月18日第5校時
魚沼市立広神西小学校 教諭 渡邊 秀人

1 研究テーマ

違いを受け入れ、相手のことを考えられる児童の育成

～他者の考えにふれ、自分の考えを深めていく活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

道徳科の目標は「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」であり、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢が大切だと考える。

そのためには、自分一人の考えだけにこだわるのではなく、相手の意見を聞いたり、自分とは違った考えを受け入れたりする必要がある。自分の考えをもつことは確かに大切なことではあるが、その考えを受け入れてもらえなかったり、発言する機会がなかったりすることは、その児童の意欲を奪っていくものである。児童の意見を相手に伝えやすくする方法を取り入れることで、全ての児童が自分の意見を伝える場を設定していく。発表した意見は可視化しながら全体で共有できるようにする。その意見を土台に話し合いが進むように授業を構成していくことで全員が自分の考えを深められると考える。

(2) 研究テーマに迫るために

① ICT機器の活用

自分自身の意見を発表する際に、ICT機器を使って情報を集約する。ICT機器で意見を発表することで、黒板にネームプレートを貼る手間を省ける。また、掲示板のようなところに意見を書き込むことで全員の意見をその場で見ることもできる。情報共有の時間を短縮することで、意見を深める活動に重点をおいて学習が展開できる。

② 選択肢の活用

自分の考えを相手に自信をもって伝えるために、いくつかの選択肢を用意する。その中から立場を選択することで1つ自分の考えをもつことができる。そして、その理由を考える中で自己内対話を促していく。

③ 問い返しの活用

児童の考えに対して本当にそれでいいのかを問う。一度考えてまとめた意見に対して、そのままでは不都合が起きる例等を挙げながら本当にその考えていいのか揺さぶりをかける。その後、もう一度違った視点で考えようとする機会を作る。

(3) 研究テーマにかかわる評価

① ICT機器を活用することで全員が意見を言うことができたか。

② 選択肢の活用を通して自分の考えをもつことができ、自分なりの理由を考えることができたか。

③ 問い返しの活用で、自分の意見がより確かなものになったり、新しい考え方に気付いたりすることができたか。

3 指導計画

- (1) 主題名 相手のことを考えて (内容項目B-11 相互理解、寛容)
 (2) 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」 (新・みんなの道徳 学研教育みらい)
 (3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値内容項目B-11「相互理解、寛容」は自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することが大切になってくる。しかし、自分を守るために、他人の失敗を非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりすることがある。自分自身が成長の途上であり、間違えることもあるといったように、自分を謙虚に見ることが大切である。相手から学ぶ姿勢や自分と異なる意見や立場を受けとめ、相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会をつくっていくために必要な資質・能力である。今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止に対応するとともに、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要である。

② 教材と児童 (生徒)

6年生になり、様々な場面で下学年の児童をまとめていく経験を重ねてきた。下学年の児童に対しては、非常に寛容であり、協力して助け合って活動をしていこうとする姿が見られた。また「1年生を迎える会」に向けて、「運動会」に向けてといったように明確な目標があれば、その目標に向かって一つになり、互いに意見を出し合いながら取り組んでいくことができた。しかし、普段の生活の中で、特に同学年での関わりの中では、違った様子が見られることが多い。他者の発言を遮って自分の意見を通したり、一部の児童たちの意見が全体の意見のように扱われたりすることがある。また、それに対して「自分は関係ない」、「どうせ意見を言っても無駄だ」といった考えをもって何もしない児童が一定数いる。

そこで、本時では、相手の思いや考えにふれ、どうしたらよいのかを考えることを通して、少しでも謙虚な心で自分とは違う考えであっても受け入れ、接していこうとする心情を育てていきたい。

本教材は、対立する二人が「自分はスターだ」というプライドを大切にしながらも、「自分だけがスターだ」というおごりを捨てる場面を通してねらいに迫るものである。それぞれが自分の考えが正しいと思って衝突していたが、相手を考えて接することでお互いを理解できたという内容である。どちらかの立場に立って相手のことを考える活動を通して、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重していこうという意欲を育てたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学期	総合 これまでの自分を見つめて	温かい行為が生まれるとき (6月)	よつば集会 (隔月)
		ロレンゾの友だち (9月)	大運動会 (5月)
			よつば遠足 (6月) 縦割り班活動
2 学期	総合 今の自分を見つめて なりたい自分になるために		修学旅行 (10月) 学習発表会 (10月)
		「ブランコ乗りとピエロ」 (10月) B-11 相互理解、寛容	よつば祭り (11月)
		差し出し続けた大きな手 (2月)	

(5) 本時のねらい

サムの立場に立って、なぜ相手のことを受け入れることができたのかを考え、伝え合う活動を通して、友達の意見を受け入れたり、相手を尊重したりしようとする道徳的実践意欲を高める。

(6) 本時の展開 (令和4年10月18日実施)

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童(生徒)の反応	◇留意点
	□朝学習の時間に本文を読んでおく。	○どのような内容か読んでおいてください。	◇自分にも似たような状況がなかったか事前に考えるように伝える。
導入 5分	□教材の内容を理解する。	○ピエロとサムは最初お互いに怒っていましたが、なぜですか。 ・サムは、目立って何が悪いと怒っていた。 ・客は喜んでいたのでいいじゃないか。 ・ピエロは、勝手にするなど怒っていた。 ○お互いに自分が正しいと思って、言い合いになりそうとき、あなたならどうしますか。 ・怒り続ける。 ・ケンカになる。 ・無視する。 ・自分の意見を通す。	◇ピエロとサムの怒っているイラストを掲示する。 ◇ピエロとサムの気持ちを黒板で整理し、お互いに言い分があることを確認する。 ◇ICT機器を使って質問に答える
展開 35分	□なぜお互いがお互いを受け入れ、許すことができたのか。	○なぜピエロはサムを許せたのでしょうか。 ・サムの必死の思いを知ったから。 ・サムを手本に頑張っていきたいと感じたから。 ・サムのおかげでいい演技ができたから。 ◎なぜサムはピエロの意見を受け入れることができたのでしょうか。 ・ピエロからの歩み寄りがあったから。 ・ピエロの本気を感じたから。 ・ピエロの意見が正しいと思ったから。 ・自分の行動を振り返ることができたから。 ○ジャムボードに自分の意見に近いところに自分の付箋を張り付ける ○なぜそう考えると何が違ってサムの意見を受け入れることができたのか同じ意見の人と協議する。 ○考えを共有する。	◇ICT機器を使って質問に答える ◇相手のいい所を受け入れたことを確認する。 ◇意見が出づらかったら、匿名で投稿できるサイトを使って意見を求める。 ◇ジャムボードで立場を視覚化する。 ◇問い返し 「そう考えると自分の中でなにが変わりますか。」 ◇くまでチャートを使って考える。
終末 5分	□振り返り	○お互いに自分が正しいと思って、言い合いになりそうとき、あなたならどうしますか。ノートに書いてください。 ・ちょっと相手の意見を聞いてみる。 ・相手の思いを受け止める。 ・自分の意見だけを押し通さないようにしたい。	◇ピエロやサムについて考えたことを活かして書けるよう支援する。

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・他の児童との話し合いを通して、他者の考えを受け入れるということに対して多面的・多角的に考えていたか。
- ・自分が正しいと思っているときでも相手の考えを受け入れるよさについて気付けたか。

② 評価の方法

- ・児童の発言、学習活動の観察、ノートへの記述

(8) 板書計画

ブランコ乗りとピエロ

ピエロ

- ・サムは、目立って何が悪いと怒っていた。
- ・客は喜んでた。
- ・ピエロは、勝手にするなどと怒っていた。

サム

○お互いに自分が正しいと思って言い合いになりそうなとき、あなたならどうしますか

○なぜピエロはサムを許せたのでしょうか。

- ・サムの必死の思いを知ったから。
- ・サムを手本に頑張っていたと感じたから。
- ・サムのおかげでいい演技ができたから。

◎なぜサムはピエロの意見を受け入れることができたのでしょうか。

①タブレットを使い、ジャムボードに自分の立場を示す。

②くまでチャートを使って自分の考えを整理する。

③児童の考えを発表する。

○お互いに自分が正しいと思って言い合いになりそうなとき、今のあなたならどうしますか。

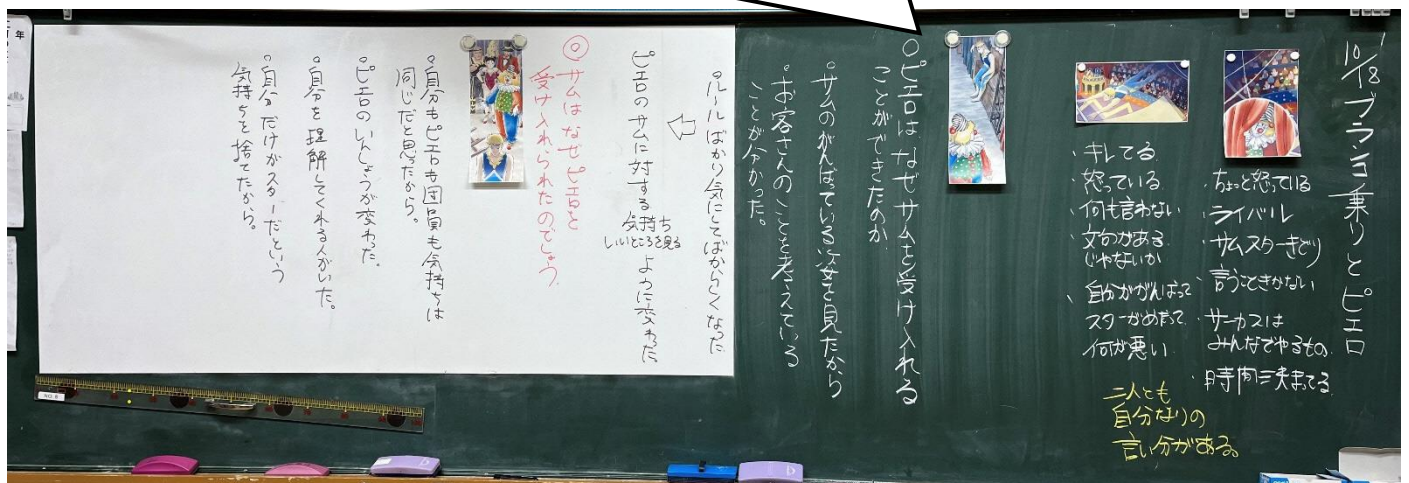
- ・ちょっと相手の意見を聞いてみる。
- ・相手の思いを受け止める。
- ・自分の意見だけを押し通さないようにしたい。
- ・相手の言い分も聞いてみる。

テレビに
児童の投稿、
ジャムボード等を映す。

- ・最初のピエロとサムの意見は、比較しやすいように横書きに変更した。
- ・2人の意見には言い分があることを確認して、記述した。
- ・◎の問いに対する意見は、意識してもらいたかったので、テレビに映すだけでなく、板書に残した。

4 実践を振り返って

(1) 授業の実際



「本時板書」

① 導入

事前に児童は本文を読み、話の概要を理解していた。導入ではピエロとサムの怒りにはお互いに言い分があることを確認した。その後「お互いに自分が正しいと思って、言い合いになりそうとき、あなたならどうしますか。」とタブレット端末用いて問うと、全員の意見を確認することができた。以下の表のような意見が出された。

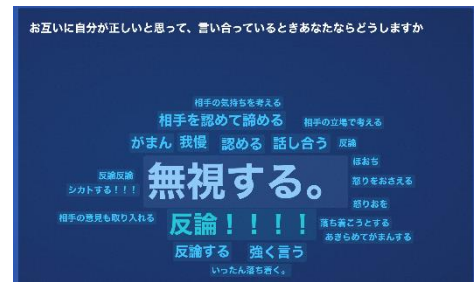


図1 問いへの回答

自分本位のもの	無視する	7名
	反論する【反論!!!!(4名) 反論する(2名)反論反論(1名) 反論(1名)】	計8名
	強く言う	2名
	シカトする	1名
解決をしないもの	相手を認めて諦める	2名
	諦めて我慢する	1名
解決しようと努める	話し合う	2名
	認める	1名
	相手の気持ちを考える	1名
	相手の立場で考える	1名
	相手の意見も取り入れる	1名
	落ち着く【いったん落ち着く(1名)、 落ち着こうとする(1名)】	計2名

表1 問いへの回答一覧(複数回答)

自分本位の意見が多かったことを児童に確認し、このような時にどの考えたらいいのか、ピエロとサムの関係の変化を見ながら考えていくこととした。

② 展開

教科書の内容から比較的考えやすい「なぜピエロがサムを受け入れたのか」を考えることで、「なぜサムがピエロを受け入れられたのか」に迫ろうと考えた。児童は教科書の叙述をもとに「サムの頑張っている姿を見たから」、「サムがお客さんのことを考えていることがわかったから」などピエロがサムの見方を変えたことに、児童は注目することができた。つまり自分のことだけでなく、相手の思いや気持ちを考えることで相手を受け入れられること気付いたと考える。次に「なぜサムがピエロを受け入れられたのか」を問うことで教科書に記述のない部分でも、気付きを手掛かりにしながら問いを解決できると考えた。児童から「自分もピエロも団員も気持ちは同じだと思ったから」、「ピエロの印象が変わったから」、「自分を理解してくれる人がいたから」、「自分だけがスターだという気持ちを捨てたから」といった意見が出てきた。この4

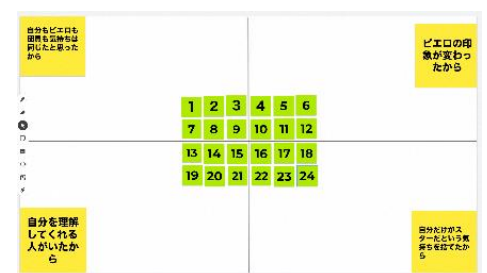


図2 選択肢の提示

つの意見の中から自分の意見に最も近いものをジャムボードから選択することで、自分の意見をもてる手立てにしようと考えた。

自分の意見を選択したことに、同じ意見の人たちと「そう考えることによってどんなことが変わるのか」を児童が考える時間を設定した。その結果児童の意見は以下のようになっていた。

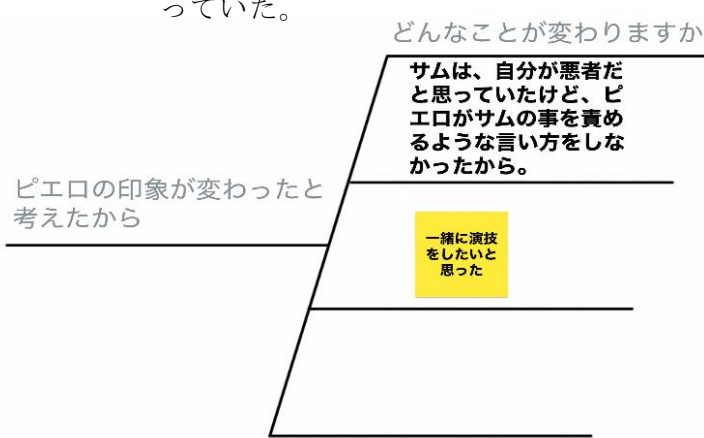


図3 A班話し合いまとめ

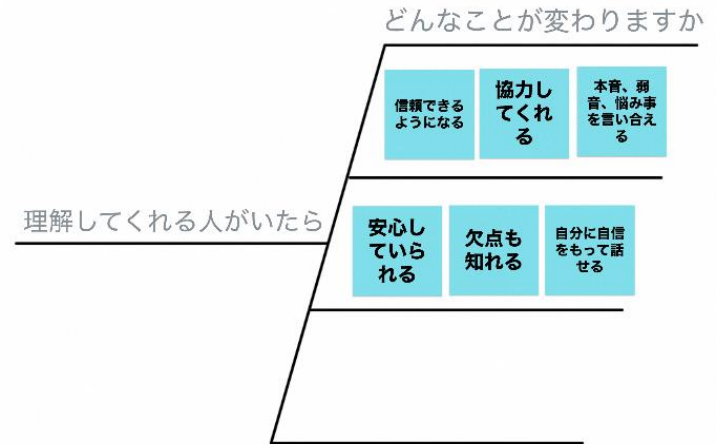


図4 B班話し合いまとめ

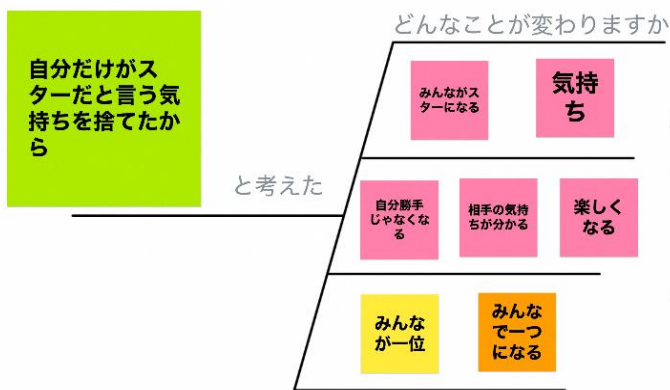


図5 C班話し合いまとめ

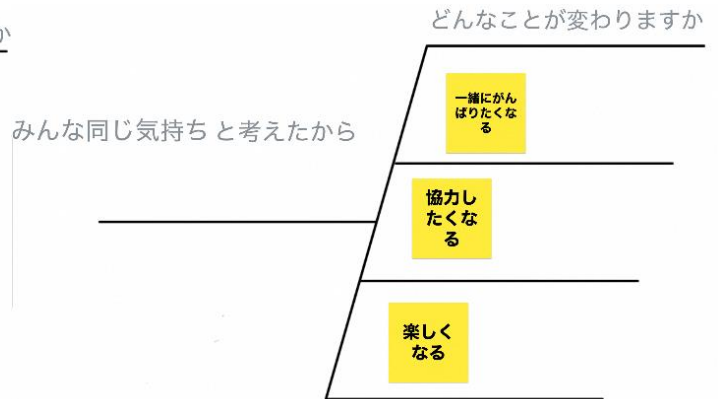


図6 D班話し合いまとめ

この時間の話し合いは、共通の選択肢を選んだということもあり、グループごとに児童の意見交換がなされていた。その後グループごとに意見を発表し、考えを共有した。

③ 終末

最後に、授業の初めに質問した「お互いに自分が正しいと思って、言い合いになりそうなき、あなたならどうしますか。」と改めて問いかけ、ノートに考えを書く時間を設定した。子どもたちの振り返りの記述は次のようなものがあった。

- ・ 言い合いをするとみんなが落ち込んだりするけどそれでも、お互い笑顔で協力し合って助け合いたい。 ※1
- ・ 相手の意見も多少認めつつ反論する。
- ・ みんなが同じ気持ちになればいいと思った。 ※1 同じ気持ちになるために（気持ちが）ポカポカする言葉を使う。
- ・ 助け合っていきたい。 ※1
- ・ 相手の意見の悪いところじゃなくいいところを見る。 ※1 どう生活に取り入れるか？

- ・すぐ反論しないで、相手の意見を聞く。相手の意見をすぐに否定しない。相手を理解する。
- ・僕はこういう雰囲気が嫌いなので自分から明るくなんでも聞けてなんでも言い合えるような空気感にしていきたいです。※1 そうするといい感じですよ。
- ・人をしっかりと受け入れてあげるのは人を変えることにつながると思いました。理由はピエロがサムを受け入れサムを変えることができたからです。※1
- ・自分勝手な行動をしないで、みんなと同じ行動をする。※1
- ・無視する。今のうちのクラスの関係では話し合うとか考えられません。
- ・思っていることを言って話し合う。
- ・最初は反論するって書いてたけど、サムとピエロを見て、相手を理解してあげるのも大切だと思いました。完全に理解はできないかもしれないけど、少しでも多く相手を理解できるようになりたいです。※1
- ・落ち着いて話し合いをして無視はせずあやまる。我慢しないで思いを伝える。
- ・自分の意見は自分の意見、相手の意見は相手の意見。1つにしなくていいと思う。※1
- ・譲ってあげたり、みんなの気持ちが分かるようになりたい。※1
- ・思ったことをちゃんとと言えるようになりたい。悪いと思ったことは悪いって言いたいけどその代わりに案を言いたい。

子どもたちの振り返り※1から大半の児童は道徳的心情を育むことはできていたと考える。しかし、道徳的実践意欲の高まりや道徳的態度を養うことができた子どもは少なかったように感じる。また、一部の児童はねらった道徳的な価値に気付かせることができなかつた。グループでの話し合いの内容をもっと全体で共有する時間をとることで、子どもたちの考えの深まりにつながると考える。

(2) 研究テーマに関わって

① ICT 機器の活用

学級の実態から担任として、直接の発言をしなくても自分の意見を表出できるという点で、大変有効なものであった。使用したサイトが、匿名で意見を発信できる特徴がある。この機能を利用したことで、児童にとって意見の言いやすい環境づくりができたと考える。また、友達の見られることが、意見を考えることが苦手な児童や自分の意見に不安感の強い児童にとって安心の材料となり、全員が意見を発信できたことにつながったと考える。全員が意見を発表し、それをもとに全員で学習していく土台を作ることができたと考える。

また、話し合いの際にも意見の修正が容易ことや、自分の思ったことをそれぞれが書き込めることで話し合いの活発化につながったと考える。

② 選択肢の活用

児童は、自分たちの意見から作り上げた選択肢を使うことで、自分の考えをもつことができた。また、自己決定をして、なぜそう思ったのかをしっかりと考えることができたため、その後の話し合いの場の中でも活発な意見交換がなされたのだと考える。しかし、今回のように児童の中から出た選択肢で考えていくことが、授業で学んでほしい道徳的価値に迫れるのかを十分に検討する必要がある。今後は、児童たちが意見を考えるための発問が中心発問を意識できるものになっているか考えて授業を構成したい。また、違う意見がでたとしたら問い返しを行い、授業で学んで欲しい道徳的価値に近づけていけるようにしていく。

③ 問い返しの活用

教師が児童に対して、本当にその考えでいいのかを揺さぶりをかけていくことで、もう一度違った視点で考えようとする機会を作ろうとしたが、授業ではあまり行うことができなかった。教師が、どのようなときに、どのような問い返しをすることで、どのような道徳的価値に気付いて欲しいのかを、事前に十分に検討をしておく必要性を感じた。

(3) 今後の課題

① 時間配分と活動の取舍選択

最も基本的なことではあるが、授業のどこに重点をもってくるのか、そして、どのくらい時間をかけるのかを事前にシミュレーションを重ねておく必要があると感じた。教材中の「なぜサムがピエロを受け入れることができたのか」を考えることに重点を置いていたが、その問いにたどり着くまでに、かなりの時間を使ってしまった。

重点を置いた発問に時間をかけることができるように授業を構成する必要がある。そのためにも、児童の思考を整理し、主発問に児童が正対できるように、ICTを活用した資料提示の工夫や板書の工夫に努めていきたい。

また、児童が自分の考えをもつために必要な活動を選択することが大切だと学んだ。今回は、ICTを使った活動を3つ設定した。3つの全てで、児童は自分の意見を発信することができたが、その意見が「考え、議論する道徳」につながり、自己の「納得解」、「最適解」につながるものであったかということの検討が不足していた。

児童が自己の「納得解」、「最適解」にたどり着くために必要な意見を可視化しながら全体で共有できる方法を活動の中に仕組んでいくことで「考え、議論する道徳」を児童とともに創り上げていきたい。

② 児童が何について考えるのかを理解するために

児童がそれぞれの活動や発問で何をしたらいいのか明確にしていく必要がある。今回の授業であれば「そう考えることによってどんなことが変わるのか」を自分について考えるのかサムについて考えるのかによって意味が変わってくる。最初にサムにとってどうだったのかを考えてから、自分にとってはどうなのかと考えることで、物語と現実とを行き来することになる。物語の内容を元に自分のことを考えることができ、より深い学びになっていったのではないだろうか。

教師が活動や発問の意味、効果を事前によく考えておくことが児童の学びにつながることを改めて実感することができた。そのために児童と迫りたい道徳的価値と教材にあった発問を考えていきたい。そのために児童が抽象的な問いから道徳的価値に迫ることが良いのか、具体的な問いから道徳的価値に迫ることが良いのか検討する。児童が道徳的实践意欲や道徳的態度を養うことができるような授業に改善していきたい。

参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7 文部科学省
- ・新・みんなの道徳 研究編 学研